

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

音更町立下士幌小学校 菅野校長（前 幕別町立白人小学校教頭）



Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

新しいことにチャレンジするため、管理職への扉を開きましたが、実際にその世界に入ると、それまで持っていた認識とは随分違いました。

何事もそうですが、そのステージに立たないと見えない景色がありますし、物事の見方を変えると、その良さや魅力が見えてくると思います。

人生、難しい局面に出会うこともあります、「ピンチはチャンス」でもありますが、チャレンジ精神を大切にして、新しい扉を開いて欲しいなと思っています。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

その頃は「何か新しいことにチャレンジしたい」「自分の成長に繋がることであれば、どんな分野でも挑戦したい」と考えていて、その選択肢の一つとして管理職があり、当時の校長先生から管理職を勧めていただいたことが、きっかけとなりました。

Q 管理職になるために必要だった支援は？

一般教員の時は、管理職の先生方がどのような仕事をしているのかを、ほとんど知らずに働いていたので、当時の管理職の先生から管理職の仕事について教えていただいたことが、一番の支援だったなと思います。

夫が単身赴任なので、私は小6の娘の子育てをしながら、仕事をしなければなりません。

娘には卒業まで同じ小学校に通学させたかったので、自宅からの通勤を希望し、認めていただきました。ただ、朝早く出勤し、帰宅は午後8時を過ぎることもあったので、「娘に負担をかけている」と心苦しい気持ちがあったことは否めません。

教頭2年目を迎える時に、娘の小学校卒業に併せて勤務校の公宅に引っ越しをしました。

地域の一員として学校を見ることができたことは、私にとってプラスなことになりましたし、娘にとっても安心感があったと思います。大変貴重な体験をさせていただきました。

次ページから
インタビューの全文を
掲載しております！
是非御覧ください！

Q 管理職になって気づいたことは？

管理職になると「全ての職員、全ての子どもたちとの関わりや、広い視野で物事を見ることがとても大事だ」と気づきました。やはり立場が変わると見方も変わるので、「管理職になってみないと、わからないな」と感じています。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

いろんな人と繋がることができることは、とても勉強になりますし魅力です。

また、女性と男性では視点が違い「女性だから話をしやすい」ということもあると思いますので、それは女性管理職の強みかなと感じています。

Q 後輩教職員へのメッセージは？

管理職を目指すかどうかを考えた時、不安や心配の方が多くと思いますが、実際に教頭になると、やってみて気づくことがたくさんあるので、自分の成長にとって良いきっかけになると思います。

ステップアップするために転職するイメージですね。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子育てには、お父さんも、お母さんも、両方が関わって欲しいです。

日本では「子育てといえば女性」という風潮が、どうしても根付いていると思いますので、女性管理職としての視点で様々なアドバイスをすることで、「そうじゃないよ」ということが、職員に伝わったらいなと思っています。

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

その頃は「何か新しいことにチャレンジしたい」「自分の成長に繋がることであれば、どんな分野でも挑戦したい」と考えていて、その選択肢の一つとして管理職があり、当時の校長先生から管理職を勧めていただいたことが、きっかけとなりました。

丁度、女性活躍推進を言われていた時でもありましたので、「私でよければ」と思い、チャレンジしました。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

一般教員の時は、管理職の先生方がどのような仕事をしているのかを、ほとんど知らずに働いてきたんです。

それで、いざ「管理職選考を受検しよう！」となっても、「教頭職って何だろう？」というのが一番の疑問でしたので、当時の管理職の先生から管理職の仕事について教えていただいたことが、一番の支援だったなと思います。

今、思い返すと、まるで笑い話のようですね。「教頭の仕事は何をするんですか？」から始まり、様々なことを丁寧に説明していただきましたが、最初はよくわかりませんでした。

教頭昇任時の家族の状況は、夫が単身赴任をしていましたので、私は小学校6年生の娘の子育てをしながら、仕事をしなければなりません。また、娘には卒業まで同じ小学校に通学させたかったので、教頭1年目は自宅通勤を希望し、認めていただきました。

ただ、通勤時間が30分程度要したこともあり、朝早く出勤し、帰宅は午後8時を過ぎることもあったので、「娘に負担をかけている」と心苦しい気持ちがあったことは否めません。

教頭2年目を迎える時に、娘の小学校の卒業に併せて勤務校の公宅に引っ越しをしました。地域の一員として学校を見ることができたことは、私にとってプラスなことになりましたし、娘にとっても安心感があったと思います。

娘が卒業するまでの4年間勤務させていただき、大変貴重な体験をさせていただきました。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

一般教員の時は、自分の仕事をしっかり行うことが大事と思っていましたが、管理職になると「全ての職員、全ての子どもたちとの関わりや、広い視野で物事を見ることがとても大事だ」と気づきました。

やはり立場が変わると見方も変わるので、「管理職になってみないと、わからないな」と感じています。

また、職員に頼られる立場になりましたので、相談事を受けた時に「こうしてみたら」とアドバイスをして、それによって解決や改善へ進んだことを先生方から報告があると、「いろんな先生と関わるのが大事だな」と思いました。

あと、教頭の仕事は範囲が広く奥が深いので、「わかりづらい、説明しづらい仕事だな」と感じています。だから、面白さや楽しさが伝わりづらいのですね。でも、やってみると、その良さがわかります。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

いろんな人と繋がることができることは、とても勉強になりますし魅力です。

いろんな職業の方、地域の方、行政機関の方などと幅広く繋がることで、視野が広がり本当に楽しいです。

20年以上、一般教員として勤務してきましたが、このような経験はほとんどありませんでしたので、全然違うと思います。

また、女性と男性では視点が違い「女性だから話をしやすい」ということもあると思いますので、それは女性管理職の強みかなと感じています。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

管理職を目指すかどうかを考えた時、きっと「教頭は大変そうに見えるな」「大変なことばかりで、楽しくないだろうな」「私なんか無理だろうな」と、不安や心配の方が多くと思いますが、実際に教頭になると、180度見方が変わるというか、やってみて気づくことがたくさんあるので、自分の成長にとって良いきっかけになると思います。

ステップアップするために転職するイメージですね。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。(前ページからつづき)

また、時間に縛られる仕事が多いので、時間だけに視点が向くとマイナスなイメージになると思いますが、仕事の中身を考えると「後々、プラスになる！」と気づいたり、一見、マイナスに見える仕事も、少し見方を変えると「これはいいことも！」と思えるので、見方を変えることで仕事の魅力についての認識が変わってくると思います。

最近、コミュニティ・スクールの関係で地域の方々との交流も増えています。異動が多い管理職ですが、それぞれの土地のプラスの面を参考にしたり、架け橋となったりすることが、これからの楽しみでもあります。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

子育てには、お父さんも、お母さんも、両方が関わって欲しいですね。

出産を迎える女性職員には「子どもを産むことは女性にしかできないので、産むことだけに全力を尽くさないで」「周りの職員が、みんなでサポートするので、仕事のことには心配しない」と伝え、父親になる男性職員にはお子さんがいるので「全力で奥さんを守りなさい」「男の人は産むことはできないけれども、産むこと以外の育児や子育ては、しっかりやるように」と、アドバイスをしています。

社会的にと言いますか、日本では「子育てといえば女性」という風潮が、どうしても根付いていると思いますので、女性管理職としての視点で様々なアドバイスをすることで、「そうじゃないよ」ということが、職員に伝わったらいなと思っています。

7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか？

昔の話で時代の風潮も違ったと思いますが、子育てしながら仕事することに、後ろめたい気持ちがあったと思います。ただ、何かあった時に相談に乗ってくれるのは、管理職と思っていました。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

新しいことにチャレンジするため、管理職への扉を開きましたが、実際にその世界に入ると、私がそれまで持っていた認識とは随分違いました。

何事もそうですが、そのステージに立たないと見えない景色がありますし、物事の見方を変えると、その良さや魅力が見えてくると思います。

人生、難しい局面に出会うこともありますが、「ピンチはチャンス」でもあります。チャレンジ精神を大切に、新しい扉を開いて欲しいなと思っています。

【インタビュー実施月：令和4年3月】

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。